

松田内閣府特命担当大臣（科学技術政策）、情報通信技術（ＩＴ）担当大臣の
マレーシア・韓国出張について

平成１８年９月１日
内閣官房・内閣府

松田内閣府特命担当大臣（科学技術政策）、情報通信技術（ＩＴ）担当大臣は、
８月２７日から、８月３１日まで、マレーシア・韓国を訪問した。

１．マレーシア

マレーシアでは、８月２９日、クアタムにおいて、アジア地域科学技術閣僚会議に共同議長として出席した。また、２８日にはＡＳＥＡＮ＋３（日中韓）科学技術閣僚会議、２９日にはＡＳＥＡＮ＋１（日本）科学技術閣僚会議に出席した。この他、シバル・インド科学技術大臣、マレーシア・ジャマルディン科学技術革新大臣他と二国間の会談も開催した。各会議、意見交換の概要は以下のとおり。

（１）アジア地域科学技術閣僚会議について

本会議は、松田大臣の提唱により開催が決まったもので、第３期科学技術基本計画にも盛り込まれている。ＡＳＥＡＮ科学技術閣僚会議の場を利用し、ホスト国のマレーシアのジャマルディン科学技術革新大臣が共同議長を務め、８月２９日の１２時から１４時までの約２時間開催された。会議における具体的な成果は以下の通りである。

閣僚会議の定期開催

今後とも、アジア地域科学技術閣僚会議を定期的で開催することとし、当面の間、毎年開催されるＡＳＥＡＮ科学技術閣僚会議の機会と併せて開催することで合意された。

共通課題に関する合意

エネルギー・環境、自然災害対策、感染症対策、バイオ・ナノなどの新技術、人材育成、国際的な産学連携などが共通課題として認識が共有された。

日本側提案への支持

我が国が提案した地域の各国間の共同研究・人材交流促進のための「オープン・アクセス・データベース」の構築に関し、参加各国から多大の支持を得て、今後具体的な検討に着手することとなった。

この他、28日にASEAN+3（日中韓）科学技術閣僚会議、29日にASEAN+1（日本）科学技術閣僚会議が開催された。これらはアジア地域科学技術閣僚会議の準備的な役割を果たした。

（２）クアantanで行われた二国間会談の概要

インドのシバル科学技術大臣との会談

28日、インドのシバル科学技術大臣と会談した。日インド間の科学技術協力に関する幅広い課題が取り上げられ、今後、既存の協力を科学技術面における戦略的パートナーシップへと進化させることを展望しつつ、オープン・アクセス・データ構築へ向けての協力、ナノテク、IT、防災等の分野における共同研究、人材育成、産学連携などの分野における二国間にわたる協力などを推進することで合意した。

その他の二国間会談の概要

28日にタイのプラヴィット科学技術大臣、フィリピンのアラバastro科学技術庁長官、29日にシンガポールのイスワラン貿易産業担当国務大臣とそれぞれ個別に会談した。プラヴィット大臣からは、アジア地域科学技術閣僚会議における日本側提案のオープン・アクセス・データベースの構築への積極的な協力が表明され、また、地球観測衛星の運用に関する謝意が示された。アラバastro科学技術庁長官、イスワラン貿易産業担当国務大臣との会談においては、日本との二国間協力の一層の推進が合意され、また、先方からは日本側提案への賛意と日本の科学技術における貢献に対する感謝が示された。

2．韓国

韓国では、キム・ウシク（金雨植）副総理兼科学技術部長官、イ・ヨンソプ（李庸燮）行政自治部長官、イ・ジャンム（李長茂）ソウル大学総長、ソ・ナンピョ（徐南杓）韓国科学技術院総長、ユン・ジョンヨン（尹鍾龍）サムスン電子株式会社副会長等と会談し、組織運営、研究開発予算の選択と集中、人材育成など幅広い分野について意見交換を行った。また、ソウル大学、サムスン総合技術院、江南区庁舎など、韓国における最先端の研究開発拠点や電子政府の取り組み事例を視察した。

（１）科学技術政策

キム副総理との会談では、日本の総合科学技術会議有識者議員、専門調査会委員等と韓国のカウンターパートである国家科学技術委員会の有識者議員が、両国による共同研究を行うことが有益な課題の選定を行うため意見交換を行うことが合意され、今後詳細につき事務レベルで協議することとなった。

(2) 電子政府

イ・行政自治部長官との会談では、電子政府構想について今後両国間で政策対話を積極的に進めていくことで合意した。